

夢童

菅波 茂

「皇帝の医学」とは回春医学である。不老不死の薬を切望した秦の始皇帝が求めた医学でもある。アジアには、皇帝の權威と権力に裏付けられた三大伝統医学がある。中国の中医學に加えて、インドのアユルベーター医学とイスラムのユナニ医学である。特徴は、現代医学にない回春医学の存在である。回春医学は究極の若さを保つ秘訣であり、日常の養生法も示唆する。昨今、話題になっている生活習慣病対策として、カロリーと塩分の調整及び運動を推奨する養生法とは深みが決定的に異なる。日本人の

平均寿命は女性が86歳、男性が79歳と世界で最も長寿を誇る。それだけに、若さを保つ世界の回春医学を再評価し、積極的に取り入れる価値がある。インドにおけるアユルベーター医学は、ケララ州、タミールナドゥ州やカルナタカ州などの南部インドでよく保存されている。若さを保ちたい政治家や映画俳優などが常連である。一方、現代医学以外の治療法を求め、米、英国やドイツなどの欧米から長期療養をする患者も増加の傾向にある。これらの国では、アユルベーター医学が徐々に浸透している。

93年5月、「医療資源

としての伝統医学」のテーマで「林原フォーラム」が開催された。国内外か

皇帝の医学

らそれぞれの医学に加え、現代医学、厚生行政や宗教の専門家が参加。驚くほど内容豊かな会議だった。結論は一各医学の理論の比較検証は困難。患者に対する臨床的アプローチによる評価をすべきだった。何故なら、アユルベーター医学はインド哲学を、中医學は易理論を、ユナニ医学はギリシアのヒポクラテス医学を背景にしていたからである。アユルベーター医学の理解にはインド哲学の基本である占星術とサンスクリット文化の理解が不可欠だった。表面的には、トリドーシャ理論にもとづいた治療法である。簡単に言えば、

く身体全体のバランスの回復を目指してアユルベーター薬（葉草）を投与する。インドは葉草の宝庫でもある。中国の中医學で用いる生薬とは非常に共通性がある。決定的な違いは金、銀、銅、錫や水銀などの鉱物の積極的な活用である。生薬よりも迅速な治療効果がある。2千度以上の高炉で無毒化した有機水銀の臨床使用など、現代医学では考えられない知恵である。8月17日から1カ月間の予定で、インドのカルナタカ州にあるマニパールの山大学アユルベーター医学教室のカマト教授が、セラピスト2人と共に岡山大学にてアユルベーター医学の臨床的アプローチと講義を行っている。

岡山大学疫学・衛生学教室とAMD Aの連携のもとに、中医學の鍼治療や漢方治療と同様に、医師法や薬事法の規制の範囲内、どのような疾患にいかなる臨床的アプローチで治療効果をあげることができるのか研究中有る。ちなみに、カマト教授は93年に開催された「林原フォーラム」にアユルベーター医学の専門家として参加している。あれから15年の年月は、参加者全員を意識と臨床経験を強化してくれている。この岡山の地を世界の「皇帝の医学」の集積地にすることほど、自身にとっても岡山、さらには日本にとっても、有意義なことはないと確信している。（AMD Aグループ代表）